

JAPRS

JAN.2022 No.1
新春号

目 次

会長年頭挨拶	1
2021年JAPRSオンライン企業説明会報告	2
令和3年度通常総会について	3
第20回JAPRS認定「サウンドレコーディング技術認定試験」実施報告	4
第18回JAPRS認定「Pro Tools技術認定試験」実施報告	6
「2021年JAPRS専門学校向けエンジニア研修会」実施報告	7
第27回日本プロ音楽録音賞の開催と授賞式レポート	9
第27回 日本プロ音楽録音賞 受賞エンジニア&作品紹介	14
第27回日本プロ音楽録音賞審査委員講評	29
会員動向	39

会長年頭挨拶

(一社) 日本音楽スタジオ協会
会長 高田 英男



明けましておめでとうございます。日本音楽スタジオ協会を代表し、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

コロナ禍による社会生活が日常に戻り始めたと感じた矢先、新たな変異株の出現により再び先が見えない状況となっておりますが、日本音楽スタジオ協会におきましては会員皆様のご協力をいただきながら、オンラインを活用したセミナー及び情報交換会を進めて参りました。また、前年度は中止としました日本プロ音楽録音賞ですが、最大限の感染症対策により開催が出来たことを含め、各事業計画を遂行させていただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

この一年、コロナ禍の中で従来の業務の進め方を根本的に見直し、デジタル化による効率化を図り、新たな創意工夫にて事業計画を進めております。キング関口台スタジオにて開催した日本プロ音楽録音賞授賞式につきましては、感染症対策の一つとして各主催団体様のコメントを事前収録し会場で流すなど、新たな試みを用いて執り行いました。例年の様な一堂に会しての華やかな授賞式ではありませんでしたが、“BEST SOUND / BEST MUSIC ～今だからこそ「音楽の力でみんなの心をつなぎたい」～”という思いが込められた暖かい言葉を関係各位からいただき、受賞された皆様の笑顔が印象的な授賞式により日本プロ音楽録音賞が締め括れたこと、本当に良かったと思っております。

時代に即したシステムを活用し新たな視点で業務遂行をして行く一方で、如何に人の思いに沿った業務推進が感動を伝えられるかなど、コロナ禍における対応の中で強く感じております。本年も視野を広く持ち、日本音楽スタジオ協会活動を進めて参りますので、ご支援ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

2021 年 JAPRS オンライン企業説明会報告

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大の中、学生が集うことによる密を避けるため、また、出展を予定していた企業のコロナ禍における採用計画見直しの影響もあり、JAPRS 企業説明会は中止とさせていただきましたが、レコーディングスタジオへの就職を目指して専門学校に在籍する学生のために開催へ向けての検討を重ねた結果、2021 年 5 月 22 日（土）にビクタースタジオ 1 階ミーティングルームをホスト会場として、ZOOM ウェビナーを利用した JAPRS オンライン企業説明会を開催いたしました。

高田会長の挨拶と就職に向かう心構えの話に始まり、下記の通り 7 社による企業説明が行われました。

ウェビナー登録者は 200 名を超え、多くの学生に参加いただき、当日参加出来なかった学生に向けてのアーカイブ配信を実施いたしました。

ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。



高田会長からの挨拶



(株) メディア・インテグレーション	取締役	岡田 詞朗
(株) サウンドインスタジオ	技術グループ 部長	河野 洋一
(株) エムアイセブンジャパン	代表執行役員 B2B セールス・ディレクター 兼プロダクト・マーケティング／執行役員	野村寿男
	営業部	三橋 武
		登井 萌水
(株) ミキサーズラボ	専務取締役	中村 隆一
(株) JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント	エンジニアグループ ゼネラルマネージャー	山田 幹朗
(株) サウンド・シティ	営業部 部長	明地 権
	オーディオ技術部 部長	中澤 智
(株) キング関口台スタジオ	経営本部長代理 兼 管理統括部長	高橋 邦明

(※ 肩書については開催当時のものとなります。)

令和3年度通常総会について

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、通常総会を開催せずに「みなし決議」を採用させていただきましたが、引き続き感染症の影響が続く中での開催方法を検討した結果、令和3年度通常総会については6月22日（火）にビクタースタジオ1階108をホスト会場としたZOOMミーティングシステムによるオンライン開催といたしました。

高田 英男会長、三浦 瑞生副会長、金井 慶之介監事および内藤事務局長が会場となるビクタースタジオ108から参加、他の法人正会員、個人正会員はオンラインによる参加となりました。

はじめに、内藤事務局長がオンラインによる出席者が発言出来る状況にあるかの確認及び定足数の確認を行い、書面表決者を含む27名の出席数を確認（定足数）、総会の開会を宣言。

続いて高田会長が議長に当たり、議事録署名人として三浦副会長、金井監事の両名が選出されました。

次に内藤事務局長より第1号議案「令和2年度事業報告書（案）」及び「収支決算報告書（案）」について説明が行われ、審議の結果、異議なく全員一致で承認されました。

続いて内藤事務局長より第2号議案「令和3年度事業計画書（案）」及び「収支予算書（案）」について説明が行われた。事前に寄せられた議案に対する質問事項に対し、高田会長及び内藤事務局長による回答・説明が行われ、続いての審議の結果、賛成多数で承認されました。

最後に議長である高田会長が閉会を宣し通常総会を解散いたしました。



高田会長



金井監事、三浦副会長

なお、例年通常総会後に行われる懇親会については、昨年に引き続き感染症拡大の状況を踏まえて中止といたしました。



オンライン開催による通常総会風景

第 20 回 JAPRS 認定「サウンドレコーディング技術認定試験」 実施報告

昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、今年度も JAPRS 技術認定試験実施の可否については検討に検討を重ねました。特に 9 月の Pro Tools 技術認定試験におきましては、緊急事態宣言の延長および対象地区の拡大により、試験実施日が宣言期間中となってしまったため、試験の中止を含めた検討をいたしましたが、試験会場となる学校におかれましては、試験で使用する教室を増やす等、更なる感染症対策強化のご協力をいただき、7 月のサウンドレコーディング技術認定試験、9 月の Pro Tools 技術認定試験ともに、予定通り無事に実施することが出来ました。

試験実施にご協力いただきました皆様に、あらためて心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大予防への対策を（検温・消毒等）十分に配慮した中、7 月 4 日（日）、札幌 × 2、仙台 × 2、新潟、郡山、東京 × 10、名古屋 × 4、大阪 × 4、広島、博多 × 2 の 9 地区 27 ヶ所の団体受験会場に分散して、「第 20 回 JAPRS 認定サウンドレコーディング技術認定試験」が実施されました。本年度の申請者数は 747 名に対して受験者数は 684 名となり、申請者数としては、2002 年（第 1 回）、2003 年（第 2 回）、2014（第 13 回）に続く過去 4 番目に多い数字となりました。（昨年より 175 名増）

試験内容は例年通り四者択一マークシート方式で、音響の理論 / 電気音響とスタジオシステム / レコーディング技術と先進技術 / 音楽・音楽著作権・音楽録音の流れ・録音の歴史などの 4 ジャンルから各 25 問（計 100 問、1000 点満点）が出題されましたが、平均点は 742.1 点という結果になりました。

以下の通り実施結果の詳細を報告致します。



検温の実施



手・指の消毒徹底



東京地区会場（中野サンプラザ研修室）



HAL 名古屋

(1) 受験申請者 747 名 欠席 63 名 受験者 684 名
最低点 220 点 最高点 1000 点 (35 名) 平均点 742.1 点

(2) 平均点詳細 (各ブロック 250 点満点)

I. 音響の理論

正答率 75.9% 平均点 189.8 点

II. 電気音響とスタジオシステム

正答率 72.8% 平均点 181.9 点

III. レコーディング技術と先進技術

正答率 78.3% 平均点 195.9 点

IV. 音楽・音楽著作権・音楽録音の流れ・録音の歴史など

正答率 69.8% 平均点 174.5 点

(3) 得点別人数

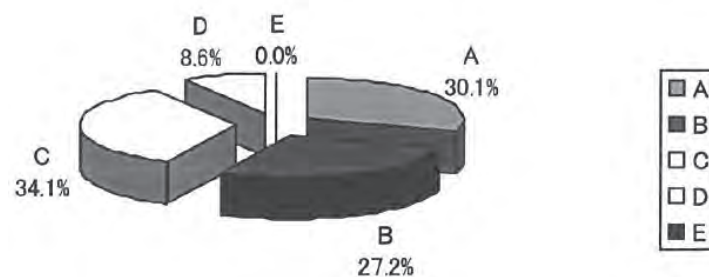
1000 ～ 900	219 名
890 ～ 800	90 名
790 ～ 700	91 名
690 ～ 600	104 名
590 ～ 500	88 名
490 ～ 400	59 名
390 ～ 300	27 名
290 ～ 200	6 名
290 ～ 0	0 名

計 488 名

(4) ランク別人数

A ランク	1000 ～ 901 点	206 名
B	900 ～ 701 点	186 名
C	700 ～ 451 点	233 名
D	450 ～ 201 点	59 名
E	200 点以下	0 名

計 684 名



第18回JAPRS認定「Pro Tools技術認定試験」実施報告

延長された緊急事態宣言下の中、更なる新型コロナウイルス感染症予防対策への配慮をし、9月12日(日)、札幌×2、仙台×2、新潟、小山、東京×8、横浜、川崎、名古屋×4、大阪×4、広島、博多×2の11地区27ヶ所の団体受験会場に分散して、「第17回JAPRS認定Pro Tools技術認定試験」が実施されました。本年度の申請者数は977名に対して受験者数は839名となり、双方ともに過去最多となった昨年の数字を上回りました。

なお、受験者の新型コロナウイルス感染症の発症事例は確認されておりません。

また、今回の試験については、昨年と同様に受験者

個々のPro Toolsに関する知識をより明確に把握するために、初級50問(500点)、中級50問(500点)の出題構成とし、それぞれ「Pro Tools概要」「録音・編集」「ミキシング」「シンク・MIDI・ファイル管理など」に区分された出題としましたが、初級問題の正答率は69.4%、中級問題については59.0%、全体的な正答率は64.2%という結果になりました。

以下の通り実施結果の詳細を報告致します。



横浜デジタルアーツ専門学校

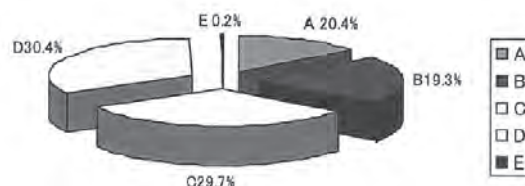


東京地区(中野サンプラザ研修室)

- (1) 受験申請者 977 名 欠席 138 名 受験者 839 名
最低点 0 点 最高点 1,000 点 (49 名) 総合平均点 631.2 点
- (2) 平均点詳細
 - 初級 1 (Pro Tools 概要 / 70 点) : 55.9 点
 - 初級 2 (録音・編集 / 120 点) : 79.9 点
 - 初級 3 (ミキシング / 140 点) : 96.2 点
 - 初級 4 (シンク・MIDI・ファイル管理など / 170 点) : 106.4 点
 - ◆初級計 338.5 点
 - 中級 1 (Pro Tools 概要 / 80 点) : 49.4 点
 - 中級 2 (録音・編集 / 150 点) : 84.6 点
 - 中級 3 (ミキシング / 100 点) : 59.0 点
 - 中級 4 (シンク・MIDI・ファイル管理など / 170 点) : 99.7 点
 - ◆中級計 292.7 点
- (3) 得点別人数

1000 ~ 900	182 名
890 ~ 800	87 名
790 ~ 700	71 名
690 ~ 600	83 名
590 ~ 500	109 名
490 ~ 400	123 名
390 ~ 300	146 名
290 ~ 200	36 名
200 ~	2 名
計	839 名
- (4) ランク別人数

A ランク	1000 ~ 901 点	171 名
B	900 ~ 701 点	162 名
C	700 ~ 451 点	249 名
D	450 ~ 201 点	255 名
E	200 点以下	2 名
計		839 名



2021 年 JAPRS エンジニア研修会

井筒香奈江・スタジオレコーディング ドキュメント映像で伝えたい事

専門学校委員会では、東京 / 大阪 / 名古屋地区において会員スタジオの協力により、プロのレコーディングスタジオにおけるアシスタントの役割とエンジニアの仕事について伝える「レコーディングセミナー～スタジオワーク編～」を開催しておりましたが、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により、セミナーの開催を中止いたしました。今年もコロナ禍の状況が続く中、スタジオ内で実施を予定しているセミナー内容を鑑み、感染症拡大の中、密を避けながらの開催は不可能と判断し、止むを得ず中止といたしました。

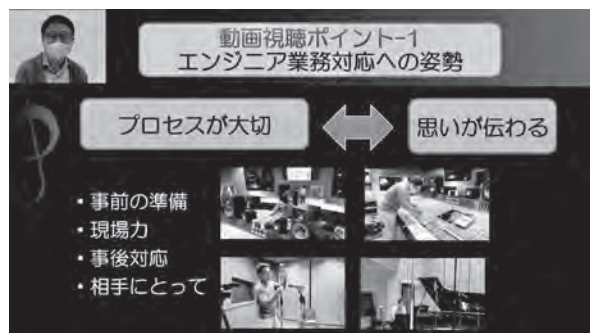
しかしながら、スタジオワークを専門学校生に伝えることは、スタジオ業界を目指す人材の育成にとって一番大事なテーマとなっていることから、同じ主旨のオンラインセミナー開催を模索していたところ、高田会長から「レコーディングの様子を撮影したドキュメント映像があるので、それを活用してどうか」との提案をいただきました。

ドキュメント映像の内容は、スタジオ内でピアノ調律が行われている横で、アシスタントエンジニアが、その日のセッションに向けて準備する映像から始まります。その後、エンジニアが来て一緒にセッティングをする様子、続いてミュージシャンがスタジオ入りして、エンジニアとコミュニケーションを取りながら音創りをして行く映像へ、そして本番に繋がって行きます。

レコーディングの流れを淡々と追った映像ながら、スタジオワークの大事なものが感じ取れると感じ、高田会長に作成いただいたパワーポイント資料と共にオンラインでの専門学校委員会内で観ていただく運びとなりました。その映像視聴後に委員会内での意見交換を経て、ドキュメント映像内に視聴ポイントの説明を加えた形に改訂し、「2021 年 JAPRS エンジニア研修会」として9月から専門学校委員会に向けての視聴案内を行いました。

専門学校としてセミナー動画視聴を希望される場合は、事務局まで連絡をいただければ、視聴に関する詳細（視聴リンク先等）をご案内いたします。

セミナー動画作成にあたりご協力いただきました、井筒香奈江さん、キング関口台スタジオ 高橋 友一さん、そして高田会長に感謝申し上げます。



JAPRS 専門学校生に向けたエンジニア・セミナー実施について

(一社) 日本音楽スタジオ協会
会長 高田 英男

JAPRS 専門学校委員会における事業計画では、次世代のスタジオ業界を担っていく学生に向けてセミナーを進めていくことが重要な軸となっており、専門学校委員会にて私が録音を担当するアーティスト（井筒香奈江）のレコーディング現場ドキュメント映像動画を使ったセミナーを提案させていただき、実施に至りました。

本番のレコーディング風景を撮影したドキュメント映像であり、いわゆる撮影のためではなく録音を最優先とした現場そのものを収録動画であり、この映像から伝わる大切なものがあると感じ、事前に動画の一部をオンライン開催した専門学校委員会にて先生方に視聴いただき、その際にいただいた意見を反映した形で、学生に向けた動画によるセミナーとして開催いたしました。動画の使用につきましてはアーティスト



柔らかなコミュニケーション～メインエンジニアとサウンドイメージの共有

のご協力をいただき、録音現場でアシスタントエンジニアがどのような仕事をしているか等を含め、伝えたい視聴ポイントを出来るだけ明確にしたセミナー資料も併せて作成し、各専門学校授業の一環として活用いただくよう、お願いいたしました。

「録音現場ドキュメント動画視聴のポイント」

- ・仕事の結果は当然重要ですが、結果を導き出すためのプロセスの大切さ。
 - ・相手の話を良く聴きながら行う、柔らかなコミュニケーションについて。
 - ・エンジニアは感覚的な事が重要ですが、感性に対して自分なりの基準を創る。
 - ・個人での音楽制作が進む中、ミュージシャンと共に感動を共有する大切さ。
- *別途、現場アシストエンジニアから学生に向けたコメント動画。

ドキュメント動画を視聴した学生の皆様から数多くの質問を頂きましたので、文章にて回答をさせていただいております。

レコーディングスタジオという業界の中で仕事をしたいと思っていただく為には、スタジオ業界からの情報発信が大変重要となっています。

今後も、将来スタジオ業界を担う学生の皆様に対し、専門学校委員会としてサポートをして参りますので、皆様のご支援ご協力の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

第27回日本プロ音楽録音賞の開催と授賞式レポート

「日本プロ音楽録音賞」は、平成5年に当協会が制定した「JAPRS 録音賞」を出発点とし、音楽制作、録音に対する認識を高め、音楽産業の更なる質の向上、録音技術者の地位の確立などを目的として、平成6年より実施されているものです。

昨年第27回を迎える予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により残念ながら中止とさせていただきました。今年もコロナ禍の状況は続いておりましたが、エンジニア皆様の音楽制作への想いに応えるべく、感染症に対する安全対策を第一に考えながら“今だからこそ「音楽の力でみんなの心をつなぎたい」をテーマとして掲げ、更にこの時代の音楽制作状況に即した形で顕彰区分をあらためて見直すことで、第27回の日本プロ音楽録音賞を開催決定いたしました。

今回第27回目の実施にあたり、一般社団法人日本音楽スタジオ協会および一般社団法人日本オーディオ協会、特定非営利活動法人日本レコーディングエンジニア協会、一般社団法人日本レコード協会、一般社団法人演奏家権利処理合同機構 MPN の5団体が主催し、経済産業省の後援および日本放送協会、一般社団法人日本民間放送連盟、株式会社ステレオサウンドの協賛、サウンド&レコーディング・マガジン、CDジャーナル、ステレオサウンド、プロサウンド、レコード芸術、オーディオアクセサリー、アナログ、ステレオの賛助、並びにNPO法人ミュージックソムリエ協会、(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント/mora、オンキヨーホームエンターテイメント(株)/e-onkyo music、オトトイ(株)/OTOTOY、(株)ソニー・ミュージックソリューションズ/ソニー・ミュージックスタジオ、(株)JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント/ビクタースタジオ、パナソニック(株)、(株)ジェネレックジャパン、(株)エムアイセブンジャパン、(株)ミキサーズラボ/ワーナーミュージック・マスタリング、ミックスウェーブ(株)、日本コロムビア(株)、(株)キング関口台スタジオ、東洋化成(株)、(株)JVCケンウッド・クリエイティブメディアの協力により「第27回日本プロ音楽録音賞」を実施いたしました。

なお、今年度は作品審査にあたり、手指の消毒やマスク着用は元より、審査委員および審査に関わるスタッフに対し毎回PCR検査を実施し、会場における密を避けるために換気量に応じた定員を定め、二酸化炭素濃度測定器によるモニターを含めた感染症対策を実施いたしました。

そして、令和3年12月6日(月)、キング関口台スタジオに於いて授賞式が開催され、受賞作品および受賞者の発表が行われました。(受賞者のみのご招待、そして更に顕彰区分を3つのグループに分けることで、会場内での密を避ける対策を行いました。)

今回の授賞式は、グループ1「Best Sound 部門」、グループ2「Super Master Sound 部門、Immersive 部門、アナログデ



第27回日本プロ音楽録音賞ポスター



表彰状の授与

イスク部門、ベストパフォーマー賞」、グループ3「放送部門」に分けて開催しましたが、例年ですと会場にて行う予定でありました、内沼 映二運営委員長の挨拶、そしてご来賓を賜る予定でありました、本賞に対し後援を得ている経済産業省 商務情報政策局 コンテンツ産業課 課長補佐 梅澤 隼様のご挨拶につきましては、式進行の都合により受賞者へ配布されたパンフレットに掲載する形とさせていただき、各グループにおいて司会者から顕彰区分の説明や授賞式進行に関する説明がされた後に、5部門計15作品、審査員特別賞1作品、およびベストパフォーマー賞について表彰が行われました。(表彰状の読み上げや講評につきましても会場内の密を避ける都合上、事前に収録した動画を交えております。)

応募作品の分類については以下の通りとし、審査は以下の5部門、ベストパフォーマー賞を対象に行われ、全178作品の応募からBest Sound部門「クラシック、ジャズ、フュージョン」：2作品、Best Sound部門「ポップス、歌謡曲」：2作品、Best Sound部門「ポップス、歌謡曲～35歳以下の部～」：1作品、Super Master Sound部門：2作品、Immersive部門：2作品、アナログディスク部門：2作品、放送部門「2chステレオ」：



授賞式会場の様子

2作品、放送部門「マルチchサラウンド」：2作品がそれぞれ優秀作品としてノミネートされ、その中から各部門1作品が最優秀作品として選定され、更にベストパフォーマー賞1作品および放送部門から審査員特別賞1作品が選ばれました。

BestSound部門：CD、DVD、BD & ノンパッケージ (PCM 96kHz 以下、DSD 2.8MHz 以下)
クラシック、ジャズ、フュージョン／応募総数 47 作品
ポップス、歌謡曲／応募総数 62 作品
Super Master Sound 部門：ノンパッケージ作品 (PCM 176.4kHz 以上、DSD 5.6MHz 以上)
／応募総数 16 作品
Immersive 部門：サラウンド作品全般／応募総数 21 作品
アナログディスク部門：ジャンル問わず／応募総数 13 作品
放送部門：2ch ステレオ／応募総数 14 作品
(ラジオ番組：AM、FM、衛星放送) (有線放送)
(テレビ番組：地上波、衛星放送)
マルチ ch サラウンド／応募総数 5 作品
(テレビ番組：地上波、衛星放送)
ベストパフォーマー賞

今回は、各部門の最優秀作品、優秀作品、審査員特別賞を紹介するとともに、受賞された代表エンジニアの方々およびベストパフォーマー賞のアーティストに受賞の感想・コメントをいただきましたので、14 頁以降に掲載させていただきます。

第 27 回 日本プロ音楽録音賞 授賞式次第

* * * 〈グループ1〉 * * *

■ 日本プロ音楽録音賞 顕彰区分～授賞式進行の説明

■ Best Sound 部門 クラシック、ジャズ、フュージョン（優秀賞、最優秀賞）

（表彰状授与・動画）一般社団法人日本オーディオ協会 会長 小川 理子

（講評・動画）一般社団法人日本音楽スタジオ協会 副会長 三浦 瑞生

■ Best Sound 部門 ポップス、歌謡曲（優秀賞、最優秀賞）

（表彰状授与・動画）一般社団法人日本レコード協会 理事 畑 陽一郎

■ Best Sound 部門 ポップス、歌謡曲 ～35以下の部（優秀賞）

（表彰状授与）一般社団法人日本音楽スタジオ協会 名誉会長 内沼 映二

（講評）特定非営利活動法人日本レコーディングエンジニア協会

※（一社）日本音楽スタジオ協会 会長 高田 英男による代読 副理事長 森元 浩二

* * * 〈グループ2〉 * * *

■ 日本プロ音楽録音賞 顕彰区分～授賞式進行の説明

■ Super Master Sound 部門（優秀賞、最優秀賞）

（表彰状授与・動画）一般社団法人日本オーディオ協会 専務理事 末永 信一

（講評）一般社団法人日本音楽スタジオ協会 名誉会長 内沼 映二

■ スタジオ賞

（表彰状授与）一般社団法人日本音楽スタジオ協会 名誉会長 内沼 映二

■ Immersive 部門（優秀賞、最優秀賞）

（表彰状授与）一般社団法人日本音楽スタジオ協会 名誉会長 内沼 映二

（講評）一般社団法人日本音楽スタジオ協会 会長 高田 英男

■ アナログディスク部門（優秀賞、最優秀賞）～ カッティング・スタジオ賞

（表彰状授与・動画）一般社団法人日本レコード協会 理事 畑 陽一郎

（講評）一般社団法人日本音楽スタジオ協会 常任理事 高橋 邦明

■ ベストパフォーマー賞

（表彰状授与・動画）一般社団法人演奏家権利処理合同機構MPN

副理事長 松武 秀樹

（講評・動画）理事長 椎名 和夫

* * * 〈グループ3〉 * * *

■ 日本プロ音楽録音賞 顕彰区分～授賞式進行の説明

■ 放送部門 2chステレオ（審査員特別賞、優秀賞、最優秀賞）

（表彰状授与・動画）日本放送協会 放送技術局 制作技術センター 専任局長（センター長）
大沼 雄次

■ 放送部門 マルチchサラウンド

（表彰状授与・動画）日本放送協会 放送技術局 制作技術センター 専任局長（センター長）
大沼 雄次

（講評・動画）株式会社 dream window 代表／

一般社団法人日本音楽スタジオ協会

理事 深田 晃
以上

主催者代表挨拶

運営委員長 内沼 映二（一般社団法人日本音楽スタジオ協会名誉会長）

受賞された皆様おめでとうございます。

また、本日の授賞式にご出席いただき誠にありがとうございます。

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言発出など、音楽業界も大変大きな影響を受け、日本プロ音楽録音賞につきましても残念ながら中止にせざるを得ませんでした。そして、今年度の開催可否について検討を進めていた夏、新型コロナウイルス感染症拡大の第5波が押し寄せるなど厳しい決断を迫られましたが、「日本プロ音楽録音賞」に対する意義そして必要性を訴える意見等が多く上がり、更なる審議を重ねた結果、審査員およびスタッフに対するPCR検査の徹底等を含めたレギュレーションを定め、感染症対策を万全にすることで何とか開催決定に至りました。また、授賞式につきましても本来なら多くのご出席を賜りたいところではありましたが、密を避けながらの策を講じて、こうして本日開催することとなりました。

そんな検討を重ねる中、コロナ禍という厳しい状況にある音楽業界に向けたエールとして“今だからこそ「音楽の力でみんなの心をつなぎたい」というキャッチコピーも生まれ、更に従来の顕彰区分を時代に即した形で見直しも図りました。（新たな顕彰区分の詳細は授賞式内で説明させていただきます。）

また、初めての試みである Immersive 部門は、多くの素晴らしい作品の応募をいただきましたが、その作品の審査方法については、多様な再生フォーマットやスピーカによる試聴システムの複雑さに頭を悩まされる中、今回は特に東京藝術大学の亀川徹教授、高田英男運営副委員長に大変ご尽力いただきました。本当にありがとうございました。

第27回「日本プロ音楽録音賞」もどうか本日授賞式を迎えることができました。ご支援、ご協力していただいた皆様に深く感謝申し上げます。



内沼 映二 運営委員長

第27回日本プロ音楽録音賞授賞式に寄せて

経済産業省 商務情報政策局 コンテンツ産業課 課長補佐 梅澤 隼様

平成6年に第1回が開催された日本プロ音楽録音賞ですが、昨年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大変残念ながら中止となりました。本年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮した形式ではありますが、「音の日」である本日、第27回日本プロ音楽録音賞授賞式が開催されましたことをお慶び申し上げます。

近年ストリーミング配信サービスが世界的に流行していますが、今年の6月には複数の大手配信事業者がロスレスオーディオ、ハイレゾリューションの音楽ストリーミングサービスを追加料金無く提供することを発表するなど、消費者がより手軽に高音質の音楽を楽しむことができる環境が整ってきております。

このような時代の流れの中で、今後エンジニアの皆様求められる技術水準はますます高くなっていくものと思われませんが、そうした環境変化の中、オーディオ録音技術の向上に努めるエンジニアの皆様を表彰し、音楽に欠かせない次世代の継承者を発掘することを目的とする本賞は、広く音楽産業の発展に不可欠なものであると考えております。

受賞者の皆様の背中を追ってこの業界での活躍を志す学生が増加し、音楽産業が更なる発展を遂げることを祈念するとともに、我々経済産業省としても環境整備に尽力していきたいと存じます。

最後になりますが、本日ご出席の皆様及び関係の皆様のご健勝、ご多幸を祈念するとともに、運営委員、審査員の皆様のご尽力に敬意申し上げます。



経済産業省商務情報政策局
コンテンツ産業課
課長補佐 梅澤 隼様



第 27 回 日本プロ音楽録音賞 受賞エンジニア & 作品紹介

Best Sound 部門 「クラシック、ジャズ、フュージョン」 (写真は☆印の代表エンジニア)

[最優秀賞]

■作品「BEYOND THE STANDARD 4

ベルリオース：幻想交響曲 作品 14/ 黛敏郎：バレエ音楽「舞楽」より
「ベルリオース：幻想交響曲 作品 14 より第 4 楽章 断頭台への行進」
アンドレア・バッティストーニ指揮 東京フィルハーモニー交響楽団

発売元：日本コロムビア株式会社

フォーマット：96kHz/24bit 2ch

配信元：e-onkyo music

☆マスタリング・エンジニア：佐藤 洋 (日本コロムビア株式会社)

<受賞のことば>

この度は第 27 回日本プロ音楽録音賞 Best Sound 部門「クラシック、ジャズ、フュージョン」において「最優秀賞」に選定頂きありがとうございます。常に魅力のある作品創りを目指し臨んでいる中で、このような形で評価して頂けたことは、とても嬉しく光栄に思います。

この作品は、「BEYOND THE STANDARD」シリーズと銘打ち、アンドレア・バッティストーニ指揮 × 東京フィルハーモニー交響楽団と日本コロムビア DENON レーベルがその両者の持てる力を最大限に引き出すためセッション録音を行い、クラシック王道の名曲中の名曲と、日本人作曲家による傑作をカップリングし、時代と国を越え、新しいスタンダード作品を生み出すプロジェクトです。

マスタリング作業でのリクエストは、精度の高い録音、ミックスされた音源の空気感と臨場感、ダイナミクスを最大限に活かすようとのことでしたので、様々な方向性を模索し、提示、検討を繰り返し、音の粒立ちと躍動感のある、現代に相応しい新たなオーケストラサウンドを目指しました。明るく鮮明で迫力のある演奏をホールの響きと共に楽しんで頂けましたら幸いです。

最後に、この作品に携わった全ての方々に心から感謝申し上げます。これからも、この栄えある賞を励みに、魅力ある作品を一人でも多くの人に楽しんで頂きたいという気持ちで取り組み、日々努力を続けていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

最後に、この作品に携わった全ての方々に心から感謝申し上げます。これからも、この栄えある賞を励みに、魅力ある作品を一人でも多くの人に楽しんで頂きたいという気持ちで取り組み、日々努力を続けていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

○ミキシング・エンジニア：塩澤 利安 (日本コロムビア株式会社)



[優秀賞]

●作品「Salon de Mari Platinum Songs ～ Special Edition ～」より「Waltz for Debby」
ミズノマリ

発売元：株式会社 JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント フォーマット：96kHz/24bit 2ch

配信元：e-onkyo music、mora

☆ミキシング・エンジニア：谷田 茂

(株式会社 JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント)

<受賞のことば>

この度は、栄えある優秀賞を頂きましたこと、とても栄誉のあることと感動しています。

先ずはじめに、御推薦してくださった e-onkyo 様には大変感謝しております。ありがとうございます。

この栄誉は私個人の力ではなく、今回のレーディングに関わられた歌手のミズノマリさん、プロデューサーの杉山洋介さんをはじめ、バンドのメンバーやスタッフの皆様、これまで私を育てて頂いたビクタースタジオのスタッフと、私を支えてくださった全ての皆様のお陰であると実感しております。

このような栄誉ある賞を受賞できたことを心から感謝するとともに、今後とも、多くの方々にお力添えを頂きながら、音楽制作に邁進していきたいと思っております。



○マスタリング・エンジニア：川崎 洋

(株式会社 JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント)

Best Sound 部門 「ポップス、歌謡曲」 (写真は☆印の代表エンジニア)

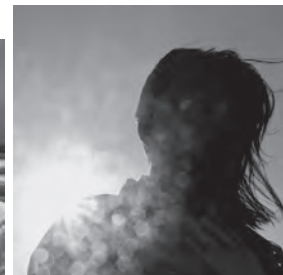
[最優秀賞]

■作品「KOE」より「甘い煙」 佐藤千亜妃

発売元：ユニバーサル ミュージック合同会社

フォーマット：96kHz/24bit 2ch

配信元：e-onkyo music、mora



☆ミキシング・エンジニア：安達 義規
(株式会社 ミキサーズラボ)

<受賞のことば>

この度は第27回日本プロ音楽録音賞『Best Sound 部門 ポップス、歌謡曲』において、最優秀賞に選定して頂き誠に感謝申し上げます。

今回の受賞にあたり、佐藤千亜妃さん、共同プロデュースの河野圭さん。作業しやすい環境を用意していただいたEMI RECORDSの渡辺雅敏さん、北山俊さん、ホリプロの菅原健臣さん、田中千暁さん、千葉さつきさん。素晴らしい出音と色々なアイディアを出してくださったミュージシャンの方々。沢山のサポートをしてくれたアシスタント、その他関係者の皆様に熱く御礼申し上げます。

今回受賞させていただきました『甘い煙』はアルバム『KOE』の1曲で、1年かけてアルバムを作っていたので、コミュニケーションも上手く取れており、デモの段階で唄もアレンジも素晴らしいものでした。

マスタリングでは、柴さんが唄にフォーカスを置きつつ、心地よい圧と抜け感を出していただき、素晴らしい仕上がりになりました。

このようなセッションに参加でき、とても光栄でした。ありがとうございました。

○マスタリング・エンジニア：柴 晃浩 (株式会社テイチクエンタテインメント)

○アシスタント・エンジニア：日浦 佑弥 (株式会社ミキサーズラボ)

[優秀賞]

■作品「oar」より「December 13」 角銅真実

発売元：ユニバーサル ミュージック合同会社

フォーマット：48kHz/24bit 2ch

配信元：e-onkyo music、mora



☆ミキシング・エンジニア：奥田 泰次
(studio MSR)

<受賞のことば>

このような栄誉ある賞をいただけたことを感謝申し上げます。この作品は角銅さんを中心に素晴らしいミュージシャンによる一斉に録音した緊張感のあるセッションでした。

この先も多くの方に聞いていただきたい作品です。ありがとうございました。

○マスタリング・エンジニア：木村 健太郎 (Kimken Studio)

～ 35 歳以下の部～ [優秀賞]

●作品「THE BEST」より「花」 jealkb

発売元：株式会社よしもとミュージック CD

☆ミキシング・エンジニア：吉貝 和也
(株式会社サウンドクルー)



<受賞のことば>

この度はこのような栄えある賞を頂き誠にありがとうございます。

光栄に思うと同時に身の引き締まる思いです。

2000 年前後のメロコアや青春パンクブームで育った自分にとって、あまりバンドで賑わっていない近年の音楽シーンは少し寂しくも感じていました。今回賞を頂いた作品はそんな寂しさを吹き飛ばすほどの感情が溢れた作品となっています。

エンターテインメント性の高い楽曲も多く、芸人がやっているバンドとイロモノ扱いされてしまいがちですが、お客さんを楽しませる事を重視しつつもこの曲のようにしっかり想いを届ける事もできるバンドです。この作品からも真剣に音楽に向き合っている事が伝わるように仕上がっていると思います。

この作品は俯瞰的に見た奥行き感で美しく仕上げるというよりも、バンドの中に入って一緒に演奏しているような気持ちになれるよう意識して Mix しています。

客観的ではなく、ぜひバンドと一緒に同じ方向を向いてメンバーそれぞれの想いも感じながら聴いて頂けたらと思います。

この度は本当にありがとうございました。

Super Master Sound 部門 (写真は☆印の代表エンジニア)

[最優秀賞]

■作品「ミューザ川崎シンフォニーホール&東京交響楽団 Live from Muza!

《名曲全集第155回》」より

「ラヴェル：ピアノ協奏曲 ト長調 第3楽章 Presto」

大友直人（指揮）・東京交響楽団、黒沼香恋（ピアノ）」

発売元：株式会社オクタヴィア・レコード

配信元：e-onkyo music、mora

☆ミキシング・エンジニア：江崎 友淑（株式会社オクタヴィア・レコード）

<受賞のことば>

本年度の栄えある日本プロ音楽録音賞 Super Master Sound 部門 最優秀賞に選ばれ、とても光栄に存じます。

この録音は、コロナウイルス感染拡大が現実味を帯びてきた2020年3月上旬、突如演奏会開催が出来なくなり、試験的に無観客で演奏を配信という形でお客様にお届けしようという目的で行われたライブです。

今思えばこの当時、出演者、事務方、そして我々、皆が未知の脅威の前に不安を感じながら真剣に取り組んだ演奏と収録の結果がこのような奇跡の録音につながったと記憶しています。

今なお続くパンデミックの影響で、演奏会などへの影響への懸念は尽きませんが、音楽の持てる力を信じて、私たちが出来ることへの努力は続けて参りたいと存じております。

改めまして、この度は誠に有難うございました。



[優秀賞]

●作品「Direct Cutting at King Sekiguchidai Studio」より

「Love Theme from Spartacus（スパルタカス 愛のテーマ）」 井筒香奈江

発売元：JellyfishLB DSD11.2MHz

配信元：e-onkyo music

☆ミキシング・エンジニア：高田 英男（株式会社ミキサーズラボ）

<受賞のことば>

第27回、日本プロ音楽録音賞 Super Master Sound 部門にて優秀賞を頂き、心より感謝申し上げます。賞を頂いた楽曲ですが、キング関口台スタジオにてダイレクトカッティングレコード制作時にパラで録音（DSD11.2MHz）した音源です。

ダイレクトカッティングによるレコード制作録音は約40年振りであり、大変緊張した録音現



場でしたが、井筒香奈江さん含めミュージシャンの皆様が、緊張感を楽しんで演奏されている感じもあり、エンジニアとして大変助けられた録音現場でした。

特にダイレクトカッティングレコード制作をトラブルなく進める為に、キング関口台スタジオからは全面的に技術サポートを頂き、更に“チーム井筒”として一緒に録音現場をサポート頂きましたエンジニアの高橋友一氏、マスタリング・カッティング・エンジニアの上田佳子さんによるきめ細かな現場対応のおかげで、大変スムーズな録音制作を進めることが出来ました。

上田さんには配信ファイル作成時に、オリジナルマスター音源を基準とした拘りのファイル制作をして頂きました。

井筒香奈江さんによる音楽の世界を「素直で音色の深さ」に拘り、ダイレクト2ch録音で制作した作品です。

ハイレゾリレーションならではの深く柔らかで音楽空間が広がる、井筒香奈江さんによる「音楽の世界」を楽しんで頂けましたら幸いです。

○アシスタント・エンジニア：高橋 友一（株式会社キング関口台スタジオ）

Immersive 部門（写真は☆印の代表エンジニア）

〔最優秀賞〕

■作品「富田勲・源氏物語幻想交響絵巻 Orchestra recording version」より

「桜の季節、王宮の日々」

富田勲 / 藤岡幸夫 指揮・関西フィルハーモニー管弦楽団

株式会社エムアイセブンジャパン

Blu-ray Auro-11.1 (7.1.4)

☆レコーディング・ミキシング・エンジニア：入交 英男（株式会社WOWOW）

＜受賞のことば＞

このたび、富田勲氏の「源氏物語幻想交響絵巻」がイマーシブ部門で最優秀賞の誉にあずかりました。何より、富田勲氏との最後の仕事でもある本作品がようやく世に出て先生の遺言が果たせ、肩の荷が下りると共に、栄誉ある賞を頂いたことを心から嬉しく思います。

本作品は、3管編成のオーケストラに5台の和楽器と語り部、さらに4ch再生音響によるミュージックコンクレーテ再生まで動員するユニークな編成です。

クラシック作品のイマーシブ収録の基礎をようやく固めることができた6年前の録音ですが、192kHz/24bitを用いたハイレゾ・イマーシブ収録だからこそ和楽器の繊細な音と豊かなオーケストラを緻密に表現できたのではないかと思います。

ミュージックコンクレーテは、富田先生の意図を壊さぬよう細心の注意で11.1chにアップミックスしました。京言葉による語りが本作品の要なのですが、演奏会ではPAのため語りだけが響き過ぎてしまっているのが、会場の響きと語りの明瞭度とを両立させることが最も苦労したところです。

富田勲といえばシンセサイザー作品ばかりが注目されますが、改めて本作品は日本を誇



るオーケストラ作品として語り継がれるものと確信します。その様な作品を音源として遺せ、さらにイマーシブ部門で最優秀賞まで頂けたことは録音家冥利に尽きますが、ここに留まることなく、さらにイマーシブ音響普及のため、身を尽くす覚悟です。

最後に本作のリリースのためにご尽力されたシンタックス・ジャパンの村井様を始め、関係者の皆様に感謝申し上げます。

○アシスタント・エンジニア：大川 宏明（株式会社ミリカ・ミュージック）

〔優秀賞〕

●作品「僕らのミニコンサート」より

「ヴェルディ・ナブッコ 第2部 御身は預言 者たちの唇を通して」

妻屋秀和 上江隼人 宮里直樹 富平安希子 近藤薫 ほか

発売元：株式会社ジーナ

配信元：U-NEXT Dolby Atmos

☆ミキシング・エンジニア：古賀 健一（Xylomania Studio LLC）

＜受賞のことば＞

この度は、初応募にも関わらず Immersive 部門を受賞できたことを大変嬉しく思います。

Rock と Pops のスタジオで育った自分が、Classic の、しかもオペラというジャンルで賞を取れたことは、ひとえにプロデューサーの河野さん、クラシック



に精通したエンジニアの池田さんのおかげだと思っています。

この作品はコロナ禍で音楽業界が大変な時期に録音されました。

特にコンサート業界は大打撃をこうむり、演者は表現の場を奪われ、音楽を創る意味を自問自答し、エンターテインメントの必要性に疑心暗鬼になりながら、エンジニアは作品を創ることの意味を問われ、僕らの仕事と言うのはつくづく音楽を奏でる人たちがいて、聴いてくれる人たちがいるからこそ成り立つ仕事であると、再認識しました。

いつか世界が平常に戻る。いやもう元には戻らないかもしれませんが、その日の為に一技術者として、十分に与えられた時間を、技術を磨く修行期間だと思い過ごしてきました。

正直、このコロナ禍の2年と言う歳月は、自分にとっては必要な時間だったと思っています。

偶然に偶然が重なり、自分のスタジオを Dolby Atmos に対応するため改修し、短期間で、同じ志を持った沢山の新しい仲間に出会いました。

この賞は、この2年間の関わってくれたみんなで取った賞だと思います。

特に Ps スタジオの近藤さん、村上さん、タムコの四ノ宮くん、そして涼真、本当にありがとうございます。これからも一緒に試行錯誤しながら最前線を突っ走っていきましょう。

この度はありがとうございました。

○レコーディング・エンジニア：池田 高史（有限会社ナミ・レコード）

アナログディスク部門 (写真は☆印の代表エンジニア)

[最優秀賞]

■作品「S.Kiyotaka&OMEGA TRIBE 7inch Singles Box」(VPKC-10370) より

「ガラスの PALM TREE」

杉山清貴 & オメガトライブ

発売元：株式会社バップ 17cm 45 回転

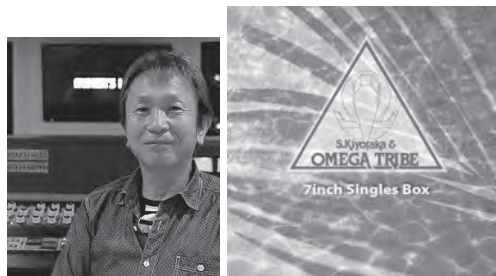
☆カッティング・エンジニア：北村 勝敏

(株式会社ミキサーズラボ ワーナーミュージック・マスタリング)

<受賞のことば>

この度は、日本プロ音楽録音賞アナログディスク部門の最優秀賞受賞を大変光栄に思います。受賞作品の杉山清貴 & オメガトライブ「ガラスの PALM TREE」のカッティングを振り返り、僣越ながら所感を述べさせていただきます。

この楽曲の支給された音源は 96kHz/24bit でリミックスされており、高音域の伸びもダイナミックレンジも十分あり、低音域のドライブ感も豊富で身体を震わせます。尺は 5 分近くあり、昨今では一般的な尺ですがシングル盤の規格サイズ内に収めるには長尺と言わざるを得ません。これをアナログ・カッティングで捉えると難題がいくつか浮かび上がってきます。まず相反する難題は、シングル盤のカッティング・レベルと低音域の量です。ドラムスやベースのドライブ感を損なうことなく、しかも十分な音圧を得られるようカッティング・マシンのフィジカル面のセッティングとイコライザーで微調整をしました。次に高音域については、カッティング・マシンに必要な不可欠なハイ・リミッター（アクセラレーション・リミッター）は、一発勝負で必要な箇所に必要な量だけ掛け、特にヴォーカルの子音は音楽の一部と捉えて必要以上に除去しないように音源の持つ高域特性を活かせるよう配慮しました。これらの手間を掛けることでヴォーカルの生々しく色っぽい声とサウンド全体を、音源のまま活かすことができたのかと思います。



○ミキシング・エンジニア：三浦 瑞生 (株式会社ミキサーズラボ)

[優秀賞]

●作品「CONGO BLUE (45 回転ダイレクトカッティング LP)」(JTRC3) より

「AON」 八木隆幸トリオ

発売元：JazzTOKYO RECORDS 30cm 45 回転

☆ミキシング・エンジニア：吉越 晋治 (株式会社キング関口台スタジオ)

<受賞のことば>

この度はアナログディスク部門優秀賞に選定して頂き、誠にありがとうございます。

この作品はダイレクトカッティングにて制作致しました。生々しい演奏をアナログ領域

のまま、ダイレクトにプロダクションマスターを完成させる潔さ。このような貴重な経験をさせていただき、大変感謝しております。プレッシャーはエンジニアよりもミュージシャンの方々のほうが大きかったかも知れません。とは言え、通常のプロセスである、ベーシックレコーディング～オーバーダビング～ミックスダウン～マスタリングと、段階を経てより良い音を目指すのに慣れている事もあり、ダイレクトならではの難しさと緊張を感じました。便利なプラグインも使えず、脱デジタルのスリリングなこの方式、癖になります。



○カッティング・エンジニア：上田 佳子

放送部門 「2ch ステレオ」 (写真は☆印の代表エンジニア)

[優秀賞]

■作品「第 62 回 輝く！日本レコード大賞」より「I'm Here」 三浦大知

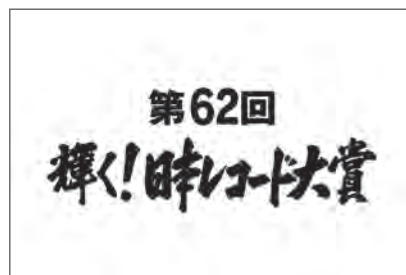
TBS HDTV stereo 2020 年 12 月 30 日放送

☆ミキシング・エンジニア：中村 全希 (株式会社 TBS テレビ)

<受賞のことば>

この度は名誉ある賞を頂き、心より感謝申し上げます。

本作品は、新国立劇場からの年末生中継番組「第 62 回輝く！日本レコード大賞」における優秀作品賞のブロックで披露されたものです。街中から人の姿が消えた、最初の緊急事態宣言中



の 2020 年 5 月に、番組内にて、オーケストラやバンド、コーラス総勢 45 名が自宅などからリモートで演奏された楽曲です。コロナ禍で前向きになれない世の中、歌詞にこめられた「ありのまま前向きに生きていこう」というメッセージを表現すべく、斎藤ネコさんによるレコード大賞スペシャルアレンジで再披露となりました。コロナ感染拡大防止により、ステージに上られるコーラス隊の数に制限がありましたが、楽曲のもつ力強さを表現する為に、5 月にリモート参加した総勢 20 名のコーラス隊を交えてのミックスとなりました。コロナ対策も重なり、現場は多忙を極めていましたが、本番では 1 発勝負の中、三浦大知さんの圧倒的なパフォーマンスと後半に向けて華やかに盛り上がる素晴らしいアレンジの世界観に支えられ、一夜限りの勢いあふれたサウンドになったと感じております。前回に引き続き、この番組での結果を評価して頂けた事に感謝し、今後も更に質の高い「音」を視聴者の皆さまに届け、番組の歴史を歩んでいけたらと思っております。

最後に、三浦大知さん、斎藤ネコさん、演奏家の皆さま、番組の企画演出をされた制作スタッフ他、全ての番組関係者の方々に深く御礼申し上げます。

○セカンド・エンジニア：相馬 敦 (株式会社 TBS アクト)

○フロア・チーフ : 長井 愛美 (株式会社 TBS アクト)

[優秀賞]

●作品「明日へつなげようスペシャル～音楽で心をひとつに～」より
「Piece of My Wish」 今井美樹

日本放送協会 HDTV stereo 2020年8月30日放送

☆ミキシング・エンジニア：森田 誠（NHK 松山拠点放送局）

<受賞のことば>

この度は日本プロ音楽録音賞にて優秀賞という栄誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。大変光栄に存じます。

今回の作品は“NHK ウィズ・コロナプロジェクト みんなでエール”の一環として放送された生放送「ライブエール～今こそ音楽でエールを～」の事前収録という位置づけで収録され、「明日へつなげようスペシャル～音楽で心をひとつに～」という番組で放送されたものです。

収録したのは昨年の7月。4月に出された緊急事態宣言の解除もつかの間、再び新型コロナ新規感染者が増えていく中での収録でした。オーケストラはソーシャルディスタンスを十分にとることを余儀なくされ、演奏者同士の距離は2mをとることでスタジオ一杯に広がらざるを得ない配置となりました。そのため人数の制限もあり、ストリングスは通常より少ない編成となり、プルト単位ではなく、演奏者1人につき一本のマイクといった形での收音となりました。吊マイクも併用したのですが、適切な吊りポイントへの配置に苦労した事を記憶しています。バラバラに収録したマイクを一つのオーケストラとして感じられる様な空間の表現が難しく、ミックスでとても苦労したことが今となっては懐かしく思い出されます。

このようなスペシャルパフォーマンスとなった作品に携われた事に深く感謝を申し上げるとともに、今後、この栄誉に恥じる事のないようミックスに取り組んでいきたいと思っています。

本当にありがとうございました。

○セカンド・エンジニア：遠藤 優太（株式会社 NHK テクノロジーズ）

○セカンド・エンジニア：高橋 義洋（株式会社ネオテック）



[審査員特別賞]

●作品「Shibuya Note Presents KID FRESINO ～ one off ～」より
「No Sun」 KID FRESINO

日本放送協会 HDTV stereo 2019年8月30日放送

☆ミキシング・エンジニア：川付 明範（日本放送協会）

<受賞のことば>

この度はこのような賞を受賞することができ大変うれしく思います。受賞に関しては、番組にかかわったスタッフはもちろんのこと、諸先輩方にたくさんご指導していただいたことを、音で表現することができた結果だと思っています。この場を借りて御礼申し上げます。



出演した KID FRESINO は今回が地上波初パフォーマンスでした。また、“初めては NHK で” という強い思いがあったということも知り、一職員としてとても身の引き締まる想いをしたことを思い出します。この番組は MC が一切立たず、1 アーティストに対し 30 分をすべてパフォーマンスに使用しており、音だけでなく映像演出に対してとてもこだわった作品になっています。全曲生演奏、映像ルックの切り替え、ムービング照明ショー、LED 映像と実写の一体化した撮影やテンポの速い曲調に対するカメラワークなど、技術的にもチャレンジした回となっており、演出や映像に負けないような音作りを目指しました。また、各担務のチーフ陣が若手で構成されており、短いながらこれまで培ってきた技術を結集し、番組が作れたことも感慨深いものがあります。

今後はこの結果を1つの自信として、引き続き視聴者に素敵な番組を届けられるように、音に対して研鑽を積んでいきたいと思っています。

○セカンド・エンジニア：中川原 修（日本放送協会）

○フロア・チーフ：日下 南（株式会社千代田ビデオ）

放送部門 「マルチchサラウンド」 (写真は☆印の代表エンジニア)

[最優秀賞]

■作品「プレミアムシアター／藤原歌劇団公演 歌劇「リゴレット」」より

「歌劇「リゴレット」から嵐の三重唱」

ジルダ：佐藤 美枝子 スパラフチーレ：伊藤 貴之 マッダレーナ：鳥木 弥生

合唱：藤原歌劇団合唱部 管弦楽：日本フィルハーモニー交響楽団

指揮：柴田 真郁

日本放送協会 HDTV 5.0ch 2020年3月9日放送

☆ミキシング・エンジニア：矢嶌 諭 (日本放送協会)

<受賞のことば>

この度は最優秀賞に選定して頂き大変光栄に思います。音声技術者としての目標をまた一つ達成できた事に、心から喜びを感じています。

出演された皆様、藤原歌劇団合唱部の皆様、日本フィルハーモニー交響楽団の皆様、お世話になった全ての皆様へ心より御礼を申し上げます。



©公益財団法人 日本オペラ振興会

今回受賞した作品はコロナ禍前に収録・放送された作品で、目指した音は大盛況だった公演の熱気と、客席で鑑賞しているような臨場感を再現することでした。

レコーディングでは、歌手と合唱団の歌声が、舞台から客席へ向かって響き渡る立体的な音を、そのまま收音することに拘りました。舞台面には複数のバウンダリーマイクを効率的に配置して歌唱を收音し、場面ごとに変わるセットに対応するため、補助マイクとして超指向性のマイク等をセットや字幕版の裏に隠し收音しました。

ポストプロダクションでは、客席で鑑賞しているような臨場感の再現「S席の音」を心がけながら音創りを行いました。

レコーディング、トラックダウン、マスタリング、MAまで一貫して音声技術を担当でき、目標とする音へ向かって効率良く丁寧に向き合ったことが、今回の受賞へ結びついたと感じています。

この作品に携わった後、間もなくコロナ禍となりました。録音賞に出品するにあたり改めて音源を聞いたとき、ホールいっぱいのブラボーの声と満席の盛大な拍手がとても愛おしく感じました。新型コロナウイルスの一刻も早い終息を心より願います。

○セカンド・エンジニア：満尾 智子 (日本放送協会)

○アシスタント・エンジニア：中島 勇太 (株式会社ネオテック)

[優秀賞]

●作品「オーケストラ・アンサンブル金沢「新世界より」

／一生に一度は聴きたい指揮者 マルク・ミンコフスキ」より

「ドヴォルザーク 交響曲第9番「新世界より」第4楽章」

指揮 マルク・ミンコフスキ 演奏 オーケストラ・アンサンブル金沢

北陸朝日放送株式会社 HDTV 5.1ch 2019年12月26日放送

☆ミキシング・エンジニア：堤 雅俊（株式会社放送技術社）

＜受賞のことば＞

北陸朝日放送は今年10月に開局30周年を迎え、その記念すべき節目の年に、この賞をいただけたことをとても嬉しく感じております。誠にありがとうございます。

普段は30～40人での演奏会が多いオーケストラ・アンサンブル金沢

ですが、この作品の収録では、客演奏者を含め64人の編成となり、とても迫力のある、また聴きごたえのある演奏会となりました。

収録にあたり、クラシック専用ホールである石川県立音楽堂コンサートホールの優れた音響特性を最大限生かすため吊りマイクをメインに構成し、スポットマイクは一部楽器の定位付けのみに用いた「正統的」な録音で行いました。

収録から放送まで2か月ほどあったため、丹念にポストプロダクションすることができました。

ポストプロダクションにおいては、会場で聴いた迫力、左右の広がりや奥行き、楽曲の持つ力強さ、清澄な響きなどを損なわないようバランスに留意し、収録で感じた圧倒される臨場感やホールの空気感までもが視聴者の皆さんにも伝わるよう繊細に行いました。

出来上がった音がこのような形で評価いただけたことは大変名誉なことであり、この録音に関わった全ての方々に厚くお礼申し上げます。



○セカンド・エンジニア：山中 康男（株式会社アイネックス）

○セカンド、MA・エンジニア：山崎 克哉（株式会社放送技術社）

ベストパフォーマー賞

■作品「Dynamogenic」より「Turn Right」 川口千里

発売元：キングレコード株式会社 CD

アーティスト：川口千里

<受賞のことば>

この度は第27回日本プロ音楽録音賞ベストパフォーマー賞に私の最新アルバム「Dynamogenic」から「Turn Right」を選んで頂き、ありがとうございます。

このアルバムはミュージシャンの演奏が隅々まで聴き取れる様に、4リズムでダビング無しというコンセプトでレコーディングしました。アドリブソロや緻密に計算されたキメだけではなく、バックিংでも繰り広げられている素晴らしい演奏を隅々までお楽しみ頂けます。

もちろん、それを可能にするには素晴らしいミュージシャンのサポートが欠かせませんが、櫻井哲夫さん、安部潤さん、菰口雄矢さんという、最高のメンバーにレコーディングをお願いする事で実現出来ました。

この様な一流のメンバーの演奏に感化された事で、私自身もいつも以上に良いパフォーマンスが出来たと思います。メンバーの皆さんにも感謝しかありません。

また、今回は日本プロ音楽録音賞という事で、レコーディング環境も今回の受賞には大きく影響してると思います。ここ数年、いろんなスタジオで個性豊かなエンジニアの方々と一緒にさせて頂く中で、レコーディング時のモニター環境が演奏に大きく影響する事を痛感しています。私のアルバムでは今回もプロデュースとエンジニアリングを木村正和さんをお願いしていますが、いつも最高のモニター環境を整えてもらっていて、今回もストレス無く演奏に集中出来ました。

これから先もこのような名誉ある賞を頂ける様、日々精進して参ります。



審査委員会

総合審査委員長 内沼 映二 副審査委員長 高田 英男、高橋 邦明

Best Sound 部門、Super Master Sound 部門、Immersive 部門、アナログディスク部門（一部代表者により審査）

審査委員：内沼 映二、岡部 潔、奥原 秀明、川澄 伸一、
椎名 和夫、塩澤 利安、末永 信一、高田 英男、
高橋 邦明、松尾 順二、松武 秀樹、三浦 瑞生、
森元 浩二、山田 幹朗、脇田 貞二

放送部門 審査委員：深田 晃、亀川 徹、芝本 孝幸、鈴木孝十郎、
高橋 正勝、中島 博和、松永 英一

（以上 50 音順）

今回の顕彰内容については、各部門の最優秀作品と優秀作品の制作に携わったミキシング・エンジニア、マスタリング・エンジニア及びベストパフォーマー賞のアーティストに表彰状とクリスタル製の表彰楯を贈呈し、セカンド・エンジニア、アシスタントエンジニアなど関わられたスタッフには表彰状を贈呈。

また、優秀作品の制作に大きく関わられたスタジオに「スタジオ賞」、アナログディスク部門の最優秀作品をカッティングしたスタジオに「カッティング・スタジオ賞」として、優秀なスタッフと良好な環境の提供に対して顕彰し、表彰状とクリスタル製の表彰楯が授与された。



受賞者集合写真

第 27 回日本プロ音楽録音賞 審査委員講評

< Best Sound 部門 クラシック、ジャズ、フュージョン >

Best Sound 部門クラシック、ジャズ、フュージョンの講評をさせていただきます。

今年度のこの部門の応募は、47 作品でした。

優秀賞の受賞作品から講評をさせていただきます。

ミズノマリさんの「Waltz for Debby」という楽曲。

ミキシング・エンジニアはビクタースタジオの谷田さん、マスタリング・エンジニアはビクタースタジオ FLAIR の川崎 さん。素晴らしい音楽を素敵な音で仕上げるプロフェッショナルのペアという感じですね。

おめでとうございます。

さて、この楽曲は、Vocal と W,Bass、Apf のとてもシンプルな編成ですが、それぞれの音がとてもナチュラルである上に、艶やかで華があるサウンドです。

Vocal の声の心地よい声質とその倍音の艶感や、息遣い、程よい Reverb 感がとても気持ちよく感じました。

W,Bass はしっかりした低音がありつつも、音の輪郭がハッキリしている。この輪郭をしっかりした音で録音しようとする、マイクの種類や位置により、指板に弦が当たるバチとした音が入りやすいのですが、そのノイズがほとんどないです。そして Apf が Vo と Bass を明るく包んでいる、包容力のある良い音。それぞれの音がそれぞれ音を全く邪魔していないと感じました。Bass ソロの所の Apf のタッチの感じを聴いていて、その音色変化と音量の変化の自然さから録音の時もヘッドフォンのモニターバランスや音色が最適でミュージシャンがとても演奏しやすかったのでは？と推測されました。

ボーカリストを含めたそれぞれのミュージシャンが、アイコンタクトをしながら、最高の歌と演奏をしたとても素直なテイク、そしてその魅力をさらに伸ばす様にミックス、マスタリングされた作品でした。

優秀賞おめでとうございます。

続いて最優秀賞、

「ベルリオーズ：幻想交響曲 作品 14 より第 4 楽章 断頭台への行進」。

マスタリング・エンジニアは日本コロムビアの佐藤 さん、そして同じくミキシング・エンジニアの塩澤 さん。

おめでとうございます。

佐藤さん、塩澤さんのお二人も、すでに複数回最優秀賞を受賞されている実力者です。

ベルリオーズの幻想交響曲と黛敏郎さんのバレエ音楽をカップリングした作品という事で、そのなかの第四楽章ですが、とても魅力的な作品に仕上がっています。

導入のピアノシモからティンパニのフォルティシモに繋がり、チェロなどの低弦楽器の弓が弦を擦るリアルでいい意味でのザラザラ感、金管楽器の華やかな響きときらびやかさ、Strings の艶やかなサウンド、木管類の優しい響き、そしてグランカッサの力強さまで躍動感溢れるサウンドでした。



(一社) 日本音楽スタジオ協会
副会長 三浦 瑞生

特にこのグランカッサの低音は、耳だけでなくお腹にも響く低音で、スピーカーではもちろんの事、ヘッドフォンで聴いていても、空気の波動を感じる様な印象でした。

アンドレアさんの指揮と 東京フィルハーモニー交響楽団さんの演奏が素晴らしいのは勿論の事、そのダイナミクスを最大限に活かしてパッケージされた事は、素晴らしいセンスと技術の賜物だと思います。

ステージの広さも、奥行き感も感じられ、しかもキレのあるサウンドの素晴らしい作品でした。

最優秀賞、誠におめでとうございます。

< Best Sound 部門 ポップス、歌謡曲 >

Best Sound 部門 ポップス、歌謡曲の講評をさせていただきます。

今年の応募作品数は、62作品と大変多く、一次審査を経て本審査を行わせていただきました。

その中から優秀賞、優秀賞～35歳以下の部～、最優秀賞を受賞した方々おめでとうございます。

<優秀賞～35歳以下の部～>

jealkbさんの作品、アルバム「THE BEST」より「花」。

ミキシング・エンジニア吉貝 和也さん、マスタリング・エンジニア阿部 光泰さんの、CD 作品です。

シンプルなロックバンドサウンドですが、各楽器の輪郭がしっかりとっていて、少ない楽器構成なのに厚みのあるサウンドが構築されています。

ヴォーカルも楽器の一部としてのバランス感ですが、楽器に埋もれることなく、しっかりと歌詞を主張してくる存在感があります。また音圧がかなり高めなのに、音が潰れることなく立体的があり、素晴らしいバンドサウンドに仕上がっています。

<優秀賞>

角銅真実さんの作品、アルバム「oar」より「December 13」。

ミキシング・エンジニア奥田 泰次さん、マスタリング・エンジニア：木村 健太郎さんで、フォーマットは48kHz/24Bitの作品です。

シンセサイザーで作られたSEとフィールド録音されたイルカの鳴き声から曲は始まります。同時演奏で録音されたとは思えない、細部まで作り込まれ、構築されたアレンジとサウンドで、サウンドプロダクションのレベルの高さに驚かされました。

ヴォーカルの空間表現が曲の進行とともに変化して行き、SEの立体感もどんどん変化していきます。ミックスエンジニアが曲の世界観にさらに磨きをかけて、素晴らしい作品に仕上がっています。

<最優秀賞>

佐藤千亜妃さん、アルバム「KOE」より「甘い煙」。

ミキシング・エンジニア安達 義規さん、マスタリング・エンジニア柴 晃浩さんで、フォーマットは96kHz/24Bitの作品です。

96kHzの作品らしく、濁りの少ない切れの良いサウンドになっています。

各楽器が一つの部屋で演奏されているという表現でなく、楽器ごとに空間が表現され絶



特定非営利活動法人
日本レコーディングエンジニア協会
副理事長 森元 浩二

妙にミックスされています。バランスも音量だけでなく、定位と距離感を変えることにより表現されていて、ミキシング・エンジニアの匠の技を感じ取ることが出来ます。

クールに曲は進行しますが、曲の重要な展開部分では、あえてバランスを崩すことにより、曲のダイナミクス感を演出しています。マスタリングは、96kHzの特徴を活かす絶妙な処理で、むやみに音圧を上げることはしていません。しかし音圧の高い他作品と並んだ時でも、小さく感じない大きなサウンドに仕上がっています。

今回の受賞作品は 44.1kHz/16Bit の CD フォーマットから、48kHz、96kHz/24Bit のハイレゾと 3 種 3 様の作品になりましたが、それぞれの作品がフォーマットにあったサウンドに仕上がっており、ミキシング・エンジニア、マスタリング・エンジニアの技術の高さを表した、音楽性の高い 3 作品の受賞となりました。

おめでとうございます。

< Super Master Sound 部門 >

Super Master Sound 部門 優秀賞の講評です。

受賞作は「Direct Cutting at King Sekiguchidai Studio」より「Love Theme from Spartacus (スパルタカス 愛のテーマ)」井筒香奈江です。

この作品は、キング関口台スタジオでのダイレクトカッティング録音時に、カッティング作業とは別に DSD 11.2MHz でパラに収録されたもので、現在アナログレコードの発売と、DSD 11.2MHz/1bit で e-onkyo music から配信されています。今回推薦されたのは後者の DSD フォーマットで録音された作品です。

ダイレクトカッティングは録音がスタートしてしまうと、エンジニアも演奏者もやり直しが効かず、マルチチャンネルやマルチトラックに慣れている現在では、なかなかハードルが高い録音作業になります。

私も昔、ダイレクトカッティングを何枚か録音しましたが、曲毎の楽器バランス、音質調整をしなければならず、緊張とプレッシャーで手に汗をかき、フェーダーが汗により塩まみれになっていた記憶があります。

さて講評です。

受賞した作品はビブラフォンを中心としたアコースティック楽器と、井筒さんのボーカルから成り立っている小編成の作品です。

高田さんの受賞コメントにもありますが、井筒香奈江さんの音楽の世界を「素直で音色の深さ」に拘ったと記しているように、ハイスpek フォーマットによる録音ならではの深みのある音質と、柔らかで広がる音楽空間は見事です。刺激がなく滑らかな質感は、DSD ならではのと思います。

小編成の 2 ch でありながらイマーシブ・サウンドの如く、広い空気感と奥行感のある音場を演出する高田さんのレコーディング・テクニックは本当に素晴らしいです。

続きまして、Super Master Sound 部門 最優秀賞の講評です。

江崎さんは、第 18 回の録音賞の部門 A 「2ch パッケージメディア / クラシック、ジャズ」で、「マーラー：交響曲 第 2 番 復活」という楽曲により最優秀賞を受賞されています。



(一社) 日本音楽スタジオ協会
名誉会長 内沼 映二

当時、審査に於いて「正直これが日本のクラシック・オーケストラ録音か」と審査員から絶賛された記憶があります。

今回、e-onkyo music さんからの推薦で、江崎さんの作品がノミネートされている事を聞き大変楽しみにしていましたが、案の定予想した通り高い評価を得る結果となりました。さて、講評です。

作品は、「ラヴェル ピアノ協奏曲 ト長調 第3楽章 Presto」

大友直人（指揮）・東京交響楽団、黒沼香恋（ピアノ）です。

収録は、ミューザ川崎シンフォニーホールにて 11.2MHz/1bit で録音されています。

ミューザ川崎シンフォニーホールは、演奏者達から「響きが良く、演奏しやすい」という評判をよく聴きますが、この作品でもミューザ川崎シンフォニーホールの響きが非常に良く表現されています。

オーケストラは、透明化があり、伸びやかな音質でありながら低域は重量感のある土台がしっかりした安定感ある音創りです。

メインのピアノは、粒たちと輪郭がくっきりして、決して刺激的なサウンドでなく艶がある音創りはホールの響きと相まって感動します。

機会があれば是非、江崎さんによるイマーシブ・オーディオでのオーケストラ録音を聴いてみたい期待に胸をときめかす思いです。

< Immersive 部門 >

今年度から日本プロ音楽録音賞のサラウンド作品への対応につきましては、3D サラウンド制作が進む現状に対応する為、新たに Immersive 部門を立上げ、審査・顕彰をすることと致しました。イマーシブサラウンド作品につきましては、各再生方法の違いによりスピーカー配置等が異なる為に、応募作品フォーマット及び再生技術に対応するため、(株)エムアイセブンジャパン様、ドルビージャパン(株)様、ソニー(株)様、そして東京藝術大学様(亀川徹教授)にご協力を頂き、審査会場を東京藝術大学・北千住キャンパスの22.2chが再生可能なスタジオとし、無事に審査をする事が出来ました事、心より感謝申し上げます。

Immersive 部門への応募総数は21作品、フォーマットとしては、Dolby Atmos、Auro-3D、360RA、5.1ch、2ch バイノーラルという内容となりました。

全体的なサウンド創りへのアプローチとして

- ①ホール録音におけるイマーシブサウンドを探索し、マイキングなど独自に研究されている作品、
- ②スタジオ録音によりイマーシブ空間をクリエイティブに工夫された作品、
- ③旧マルチ音源をミキシングによりイマーシブ音楽制作した作品と、大きく三つに分類される状況でした。

では受賞作品の講評です。

○優秀賞

「僕らのミニコンサート」より

「ヴェルディ・ナブッコ第2部 御身は預言者たちの唇を通して」



(一社)日本音楽スタジオ協会
会長 高田 英男

妻屋秀和 上江隼人 宮里直樹 富平安希子 近藤薫 ほか
ミキシング・エンジニア : 古賀 健一 Xylomania Studio LLC
レコーディング・エンジニア: 池田 高史 (有) ナミ・レコード
再生方式: Dolby Atmos

録音: 2021 年 2 月 銀座王子ホール
編成: 東京フィルコンサートマスター近藤薫を中心として弦楽五重奏
+ オペラ歌手 妻屋秀和 (バス) による演奏。
U-NEXT にて Dolby-Atmos & Dolby Vision での配信。

◎従来のステレオクラシック録音をベースに、イマーシブサウンドを生かすマイキング
(アンビソニックマイク、ホールトーンマイク) など、エンジニア池田さんと古賀さんとの
連携にてのホール録音。

◎Dolby Atmos ミックスは、古賀さんの Xylomania Studio にて古賀さんがミックス。

試聴感想

従来のステレオ再生や 5.1ch サラウンド再生とも異なり、更に特別にイマーシブ感を意識したサウンドではなく、とても自然なホール音響空間の中で、音楽に引込まれる音創りと感じました。圧倒的に迫力があるバスの歌声とチェロ・コントラバスの音色感が心地よい絶妙なバランスにて表現されており、リアルで高解像な Dolby Atmos ならではの音楽空間のサウンド創りがされていると感じました。

古賀さんをお願いして、Xylomania Studio のモニター再生環境にて試聴の機会を得て、音密度の濃いイマーシブサウンドならではの魅力を体験させて頂き、古賀さんから Dolby Atmos を使ったサウンド探求への強い思いをお伺いし、エンジニアプロデュースによる新たなエンジニア像を実感するとともに、エンジニアとしての音楽制作（サウンド創りへの意図）の強さが、如何に大切かを感じた次第です。

○最優秀賞

「富田勲・源氏物語幻想交響絵巻 Orchestra recording version 藤岡 幸夫 指揮
関西フィルハーモニー管弦楽団」より
「桜の季節、王宮の日々」
富田勲／藤岡幸夫 指揮・関西フィルハーモニー管弦楽団
ミキシング・エンジニア : 入交 英雄 (株) WOWOW
アシスタント・エンジニア: 大川 宏明 (株) ミリカミュージック
(録音当時: 毎日放送局 制作技術部)
再生方式: Auro-11.1 (7.1.4)

録音: 2015 年 4 月 大阪・住友生命いずみホール
* 富田先生最後の立会の作品。

楽器編成: 5 人の和楽器奏者、語り、オーケストラ、富田先生制作 4ch
サウンドエフェクト音源。
基本メインマイク: デジタルマイク使用、デッカツリー+アウトトリガーマイク方式
ホールトーンマイク: 無指向性マイクのオムニクロス方式
録音フォーマット 192 k Hz/24bit マルチ録音、
◎当時録音した音源を 3D サラウンドにてミックスして富田先生に聴いて頂き、是非出

版を検討してほしい。

◎6年間を経て、新たに3Dリミックスを行い、Blu-ray制作に至る。

* 富田先生の4chにつきましてはAuro—technologies社のアップミックス技術を使いAuro13.1chにフォーマット変換してリミックスを行う。

試聴感想

大変に美しい弦の響き・和楽器とオーケストラの融合・富田先生のシンセサイザーサウンドによる新たな音楽空間表現・語りのバランスなど、繊細なミキシングとイマージブ録音技術を探求されている入交さんならではのサウンドにて、富田先生の音楽の魅力（深さ）が創作された作品と感じました。私自身、CDフォーマット・2chバイノーラル再生・Auro-11.1（7.1.4）にて試聴させて頂き、一貫とした超リアル感、且つ、音楽の深さを感じる入交サウンドの魅力を感じさせて頂きました。

纏め

3Dサラウンドによる音楽表現は、新たな音楽感動を生み出す大きな力を持っており、今後、世界に向けメディア制作技術に対する日本のエンジニア力を発進する大きなチャンスであると感じております。

今年度の応募作品を試聴し、改めて録音する音楽への深さを探求し、クリエイティブに録音制作にチャレンジされているエンジニアの姿勢が本当に大切である事を改めて感じた次第です。

最後になりましたが、受賞されました皆様、本当におめでとう御座いました。

<アナログディスク部門>

それでは、アナログディスク部門の講評をさせていただきます。

まずは、受賞された皆さま、誠におめでとうございます。一昨年はアナログディスク特別賞でしたが、今年度、アナログディスク部門が新設されました。33回転盤、45回転盤、また7インチ盤、12インチ盤、そしてカラーレコードと多岐にわたる13作品の応募がございました。現代ならではのレコード制作プロセスが感じられる応募作品が多く、その制作されたアナログディスクの音質そして音場感を、非常に興味深く、また楽しく審査させて頂きました。

さて、優秀作品の、八木隆幸トリオ「CONGO BLUE（45回転ダイレクトカッティングLP）より「AON」は、ミキシング・エンジニア吉越さん、カッティング・エンジニア上田さんによる作品ですが、ダイレクトカッティングの手法を用いて制作されております。演奏、ミキシング、カッティングとすべてのプロセスで失敗が許されない緊張感あふれるセッションであります。現在では避けて通ることが出来ないデジタル変換、メディア変換が一切ない、純粹なアナログサウンドはとても新鮮で魅力的でした。演奏のグルーブ感、ダイナミズムがとても良く表現された作品だと思います。

そして、最優秀作品の杉山清貴&オメガトライブ「S.Kiyotaka&OMEGA TRIBE 7inch Singles Box」より「ガラスのPALM TREE」は、カッティング・エンジニア北村さん、ミキシング・エンジニア三浦さんによる作品ですが、過去に発売された楽曲をリミ



（一社）日本音楽スタジオ協会
常任理事 高橋 邦明

キシング、カッティングされたものとなります。発表された当時とはまた違ったアプローチ、現代のテクノロジーを駆使しつつ、楽曲の魅力を最大限に引き出したミキシングには大変魅了されました。一方、カッティング工程ですが、楽曲の特性、アナログディスクの特徴を鑑みつつ、溝を刻んでいくカッティング技術は、流石は北村さんと感じました。

審査後、顕微鏡で溝を覗いてみたのですが、そのカッティングされた溝の美しさとギリギリまで攻め込んだダイナミックな溝には大変感動致しました。魂が刻まれていると思います。その上質であり柔らかくも芯のあるしっかりとしたサウンド、広大な音場感は現代でこそ表現出来得る特筆すべき素晴らしい高品質、高音質のアナログディスクサウンド作品だと思います。

あらためまして受賞された皆さま、まことにありがとうございます。

<ベストパフォーマー賞>

川口千里さん、ベストパフォーマー賞受賞おめでとうございます。

プロ録音賞のベストパフォーマー賞は、プロ録音賞にエントリーされた作品の中から、優秀なパフォーマンスをされた方に送るという趣旨のもので、これまでもクラシックからポップスに至るまで様々なジャンルのパフォーマーの方々が受賞されていますが、今年は、川口千里さんに満場一致で決定しました。

あえてジャンルということでは、フュージョンとか、そういう呼び方になるのだと思いますが、今回受賞された「Turn Right」という曲は、どちらかというとしっとりとしたミディアムの曲で、それぞれの楽器が等身大で流れていく中で、メンバーの方々のパフォーマンスもそれぞれ素晴らしいのですが、

その中できっちりグルーブを提示されていること、それも、女性らしい、まるーい、まるーい流れるようなグルーブになっていて、とても心地よく聞くことができました。

川口さんは、手数王と呼ばれている菅沼孝三さん、菅沼さんは最近亡くなられてとても残念なんです、その菅沼さんのお弟子さんだったということで、おそらく手数で勝負するようなテンションの高いプレイももちろん得意とされていると思いますが、そういう曲ではない、どちらかという空間を感じさせる曲でのグルーブ感が、24歳というご年齢を考えても凄いものがあるなあと感じ入った次第です。

われわれ MPN はミュージシャンの団体ということで、いろいろなスタイルのミュージシャンの方々をメンバーに持っているわけですが、昨今の商業的な音楽が、ややもすると打ち込み系にどんどん傾斜していく中で、フィジカルなパフォーマンスを前提とする音楽の存在というものは、かけがえのないものだと思います。そうした中で、ミュージシャンシップといいますか、フィジカルな鍛錬を前提とする音楽をこれからもどんどん引っ張っていく、そんな存在になっていただきたいと、心から期待をしております。

これからのご活躍を心から楽しみにしております。

川口さん、受賞おめでとうございます。



(一社)演奏家権利処理合同機構MPN
理事長 椎名 和夫

<放送部門>

第 27 回日本プロ音楽録音賞放送部門の講評を伝えます。

今年度の放送部門は、2ch ステレオが 14 作品、マルチ ch サウンドが 5 作品の応募がございました。

その中から優秀作品として選ばれた作品について講評いたします。

<2ch ステレオ>

○優秀賞

作品「明日へつなげようスペシャル

～音楽で心を一つに～」より

「Pie of My Wish」 今井美樹

日本放送協会 2020 年 8 月 30 日放送

担当はミキシングエンジニア：森田誠さん 所属は N H K 松山拠点放送局です。

では講評です。

オーケストラがソーシャルディスタンスのために人数制限、そして広がった配置というスケール感とまとまり感を出すのが難しい収録状況の中、ミキシングの苦労が見て取れる作品でした。このようなケースでは、オーケストラピットで録音するオペラのように数多くのマイクを使用しないとバランスをまとめることが難しいですが、そんな中オーケストラバックの Vocal 作品として上質なポップスに仕上がっており、審査員の評価が高い作品となりました。

収録状況により仕方がないことですが、映像で見る音像定位と音の定位の違いが少し気になりました。また、オーケストラの空間感が出ると更に良くなるように感じました。

いずれにしても素敵な作品に仕上がりました。

関係者の皆様おめでとうございます。



(一社) 日本音楽スタジオ協会 理事
(株) dream window
代表 深田 晃

○最優秀賞

作品「第 62 回輝く！日本レコード大賞」より「I'm Here」 三浦大知

TBS 2020 年 12 月 30 日放送

担当はミキシングエンジニア：中村全希さん、所属は株式会社 TBS テレビです。

では講評です。

オーケストラのスケールのある響きとタイトでバランスの良いリズム隊がバランス良くミキシングされ、そこに三浦さんの素晴らしいパフォーマンスが加わり、とても力強く説得力のある作品に仕上がっていました。これらをまとめる音楽的センスの良さと技術力の為せる結果だと思います。審査員全員、文句なしの最優秀賞です。

前回もこの番組の作品が評価され受賞しましたが、今後も技術の継承だけに留まらず、より良い音楽作品を作って行ける環境づくりも進めていただければと思います。

関係者の皆様、おめでとうございます。

今回点数的には僅差で次点となりましたが、非常に良い作品がありましたので、審査員特別賞を進呈する事としました。

○審査員特別賞

作品「Shibuya Note Presents KID FRESINO~one off~」より

「No Sun」KID FRESINO

日本放送協会 2021 年 6 月 5 日放送

今回点数的には僅差で次点となりましたが、非常に良い作品でありましたので、審査員特別賞を進呈する事としました。

担当はミキシングエンジニア：川付明範さん、所属は日本放送協会です。

では講評です。

この番組は一人のアーティストにスポットを当てた意欲的な映像作品で、以前もこの番組で賞を取っていると思います。

音楽と表現されたサウンド感が見事に一致しており、タイトなドラムサウンドとボイスが映像と相まって良質な作品に仕上がっています。TV というより DVD などのビデオ作品を見ているような作品性を感じました。

今回残念ながら聞きどころや苦労した点などの情報が応募資料に無かったのですが、あれば読みたかった作品でした。

今後も素敵な作品に取り組んでください。

関係者の皆様、おめでとうございます。

〈マルチ ch サラウンド〉

○優秀賞

作品「オーケストラ・アンサンブル金沢「神世界より」

／一生に一度は聞きたい指揮者 マルク・ミンコフスキ」より

「ドヴォルザーク交響曲第9番「新世界より」第4楽章」

指揮：マルク・ミンコフスキ 演奏：オーケストラ・アンサンブル金沢

北陸朝日放送株式会社 2019 年 12 月 26 日放送

担当はミキシングエンジニア：堤雅俊さん、所属は株式会社放送技術社です。

では講評です。

クラシック専用ホールである石川県立音楽堂の収録で、音楽ホールの特徴を良く表現した作品になっています。クラシックの録音をどのように行うかについては、様々な考え方による多くの手法がありますが、今回の収録は近年では少ない Phillips 方式によるものだと思います。音像定位の正確さは多少劣る方式ですが、オーケストラ感が良く出ており、収録後の丁寧なポストプロダクションにより臨場感も上手く表現されており、皆さんの努力が形になった作品ですね。今後もいろいろトライしていただければと思います。

関係者の皆様、おめでとうございます。

○最優秀賞

作品「プレミアムシアター／藤原歌劇団公演 歌劇「リゴレット」より

歌劇リゴレットから嵐の三重唱

合唱：藤原歌劇団合唱部 管弦楽：日本フィルハーモニー交響楽団 指揮：柴田真郁

日本放送協会 2020 年 3 月 9 日放送作品

担当はミキシングエンジニア：矢島 論さん、所属は 株式会社ネオテックです。

では講評です。

この作品のようなオペラ作品は演出内容によって、マイク配置等で苦労するものです。

今回も場面によって様々なマイクが必要になったと思います。

審査における視聴希望パートが非常に盛り上がるシーンであるということもありますが、そう言った苦労を感じさせることがなく、ダイナミックで立体的であり、意図した音が表現出来ているように思いました。ポストプロダクションにおいても丁寧な仕事をしたことが感じ取れる優れた作品に仕上がっています。

今回はその苦労が身を結んだのだと思います。

関係者の皆様、おめでとうございます。

最後に、今回の応募作品に対する全体講評を簡単に述べたいと思います。

今回の応募作品は、例年よりもオーケストラを用いたものが多かったように思います。

オーケストラは個別の楽器の集まりというよりは、大きな一つの楽器と捉えた方がオーケストラサウンドのイメージを掴みやすいと思います。

とは言え、ホール録音とスタジオ録音では自ずと録音に対するアプローチは異なります。

ただ、スタジオ録音で多くのスポットマイクを多用した場合でも、大きな一つの楽器というイメージが出来ていれば目指すサウンドイメージが作りやすいかと思います。

そう言ったオーケストラサウンドとタイトなリズム隊を如何に融合させるかと言うのは、難しくてもやりがいのある作業です。今回受賞された作品は、ほぼそのような作品であったと思います。

CD 等の音楽録音でも、なかなかこの様なスケールで録音する機会は少ないものです。放送ならではの意味贅沢であるこの様な収録の機会を、多くの音に対する知見を得る手段として多くの放送技術者に受け継いでいただければと思います。

次年度も優れた作品が出てくることを審査員一同、楽しみにしています。

会 員 動 向

1. 会員数（令和4年1月1日現在）

正会員（法人）	20 法人	準会員	1 法人
正会員（個人）	13 人		
賛助会員Ⅰ	41 法人	賛助会員Ⅱ	2 法人

2. 退会

①賛助会員Ⅰ

株式会社トライテック

12月31日付

3. 法人・会員代表者および住所変更、その他

①法人正会員

○法人代表者変更

株式会社サウンドインスタジオ

（旧）太田 敏彦

（新）安岡 喜郎（代表取締役社長）

②賛助会員Ⅰ

○法人名変更

仙台スクールオブミュージック＆ダンス専門学校

（旧）学校法人 滋慶文化学園

（新）学校法人 滋慶学園

4. その他

○役職変更

一般社団法人 日本音楽事業者協会

（旧）堀 義貴

（新）瀧藤 雅朝

○役職変更

一般社団法人 日本作編曲家協会

服部 克久（名誉会長）

小六 禮次郎（理事長）

○理事長変更

公益社団法人 日本舞台音響家協会

（旧）渡邊 邦男

（新）齋藤 美佐男

○会長変更

一般社団法人 日本レコード協会

（旧）重村 博文

（新）村松 俊亮

○理事長変更

特定非営利活動法人 Recording Musicians Association of Japan

（旧）那須野 直裕

（新）篠崎 央

♪ 編 集 後 記 ♪

新年明けましておめでとうございます。今年はコロナ3年目というのでしょうか？この号が出ている頃には感染者数がどうなっているのか分かりませんが、昨年後半から徐々にライブも再開されて、ようやく音楽業界も活気が戻ってきているのではないのでしょうか。コンテンツ制作もライブ活動も人間社会に欠かせない大切な文化と実感している今日この頃です。

Ryu1.N

引き続きのコロナ禍ではありますが、今までの流れで行なって来た色々なことを見直すには良い機会かも知れません。やり方を変えれば新しい何かが見えて来るかも。

Pesonai

明けましておめでとうございます。新たな気持ちで少しずつでも前進して行けたらと思います。本年も宜しくお願い申し上げます。

mm

***** 総 務 委 員 会 *****

委員長 中村 隆一（ミキサーズラボ）

委員 内藤 重利（事務局）

” 伊東 真奈美（ ” ）

【発行人】 会 長 高 田 英 男 【発 行】 2022年（令和4年）1月

【発行所】 一般社団法人 日本音楽スタジオ協会

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目1番11号 モナーク大久保3F

TEL. 03-3200-3650 FAX. 03-3200-3660

<https://www.japrs.or.jp> E-mail:japrs@japrs.or.jp

【編 集】 総 務 委 員 会

【印刷所】 株式会社研恒社



JAPRS

Japan Association of Professional Recording Studios

<https://www.japrs.or.jp> E-mail: japrs@japrs.or.jp